

111) 山茶花の女

陽だまりに山茶花の花 またひとつ花を咲かせり
やがて来る寒さこらえて 穏やかに秋はすぎゆく
明日吹く西風あらば それはもう冬の前ふれ
落ちてゆく木の葉を巻いて 木枯らしの歌を奏^{かな}でる

秋風に山茶花の花 またひとつはらはら散りぬ
風道に咲く花ひとつ 風道に散る花ひとつ
それぞれに生命^{いのち}を誇り それぞれに生命を終わる
ひそやかに秋は来たりて ひそやかに秋はすぎゆく

陽だまりに花は香りて 吹く風に花は散り行く
秋風に去りゆきし女 ふるさとの土^{かえ}に還りぬ
芳しく蕾のままで 美しき生命終われば
安らかな秋の陽ざしに 包まれて永遠^{とわ}に眠れよ

山茶花の花のごとくに ひかえめに香りたつ女^{ひと}
美しく生命もやして 美しく生命とぎして
山茶花の花のごとくに はかなくも夢果てし女
安らかな秋の陽ざしに 包まれて永遠に眠れよ

美しく生命もやして 美しく生命とぎして
安らかな秋の陽ざしに 抱かれて永遠に眠れよ